

2012年度徳島大学卒業（修了）生の就職・各種国家試験合格状況について

就職困難な社会情勢の中、
2012年度本学学部卒業生の就職率は

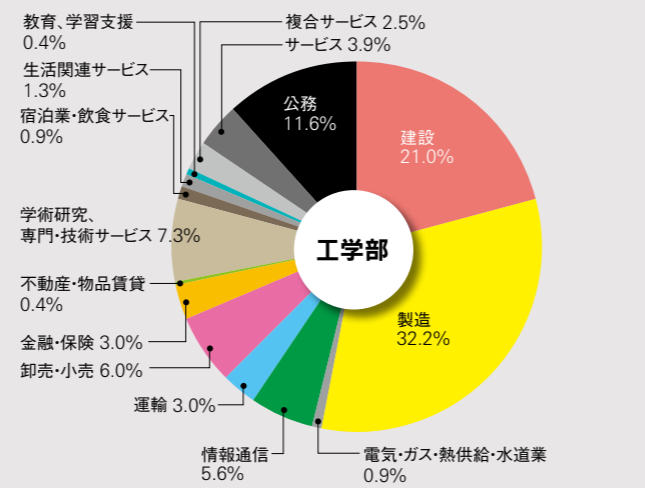
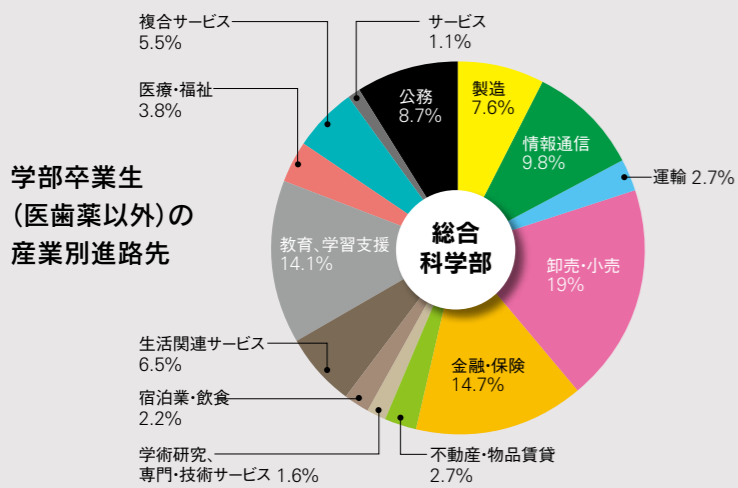
97.0%

2013年3月 学部卒業生の就職率 **大学93.9%**

(うち国公立大学 95.3%) (2013年4月1日現在 / 5月17日 文部科学省・厚生労働省発表)

2012年度学部卒業生 進学・就職状況 (2013年5月現在)

	総合科学部			医学部			歯学部		薬学部		工学部	
	医学科	栄養学科	保健学科	歯学科	口腔保健学科	薬学科	創製薬科学科	昼間コース	夜間コース			
卒業生数	266	84	46	132	43	16	41	37	545	46		
進学者数	39	0	22	19	0	1	0	32	324	8		
その他	39	5	1	5	2	1	2	4	8	2		
就職希望者数	188	79	23	108	41	14	39	1	213	36		
就職者数	184	79	22	107	41	14	39	1	201	32		
就職率	97.9	100	95.7	99.1	100	100	100	100	94.4	88.9		



2012年度各種国家試験等の合格状況

試験種別	合格者数 (合格率)
医師国家試験	86 (89.6%)
歯科医師国家試験	51 (83.6%)
管理栄養士国家試験	45 (97.8%)
看護師国家試験	66 (100%)
診療放射線技師国家試験	29 (80.6%)
臨床検査技師国家試験	18 (100%)
保健師国家試験	75 (100%)
薬剤師国家試験	41 (91.1%)
歯科衛生士国家試験	16 (100%)
社会福祉士国家試験	16 (94.1%)

公務員合格者数 ※大学院生を含む

職種	合格者数
国家公務員一般職	5 (総合科学部1、薬学部1、工学部3)
地方公務員	53 (総合科学部16、薬学部4、工学部33)
国税専門官 他	2 (総合科学部1、工学部1)

※地方公務員は就職者数を示す

教員免許取得者数 ※大学院生を含む

取得者数 (延べ人数)	
中学校	41 (総合科学部41)
高校	108 (総合科学部81、工学部27)
養護教諭	13 (医学部13)
栄養教諭	17 (医学部17)

2012年度大学院修士 (博士前期) 課程修了者 進学・就職状況 (2013年5月現在)

就職率 **97.3%**

	総合科学教育部	医科学教育部	栄養生命科学教育部	保健科学教育部	口腔科学教育部	薬科学教育部	先端技術科学教育部
修了者数	50	10	28	22	4	30	339
進学者数	3	3	2	1	1	11	15
その他	4	4	1	13	1	3	13
就職希望者数	42	3	25	8	2	16	311
就職者数	41	3	23	7	2	16	304
就職率	97.6	100	92.0	87.5	100	100	97.7

2012年度大学院博士 (博士後期) 課程修了者 進学・就職状況 (2013年5月現在)

就職率 **86.2%**

	医学研究科-医科学教育部	栄養生命科学教育部	保健科学教育部	口腔科学教育部	薬科学教育部	工学研究科 先端技術科学教育部
修了者数	38	10	1	17	11	31
進学者数	0	0	0	0	0	0
その他	37	6	1	11	4	20
就職希望者数	1	4	0	6	7	11
就職者数	1	3	0	6	5	10
就職率	100	75.0	—	100	71.4	90.9

先輩に 続け

高知医療センター薬剤局長
服部 暁昌
(はっとりあきまさ)

「病院薬剤師」という選択と その中で見つけた目標



略歴 Profile

昭和52年	徳島大学薬学部製薬化学科卒業
昭和54年	徳島大学大学院薬学研究所修士課程修了 徳島大学医学部附属病院薬剤部
昭和57年	高知医科大学医学部附属病院薬剤部
平成17年	高知医療センター薬剤局長
平成24年	高知医療センター薬剤局長

早いもので、私は薬学部卒業後（昭和52年卒、54年修士修了）、あと2年で定年を迎えることになりました。修士課程修了後、徳島大学附属病院で2年間、その後高知県に赴任し高知医科大学附属病院（現在の高知大学）に創設準備時から23年間、そして平成16年から高知医療センターの開院準備（高知県と高知市の統合病院）に携わり翌年の開院後から現在までの8年間、合わせて33年間を幸いにも？病院薬剤師としての仕事に一貫して従事することができました。今回、本誌執筆の機会を頂き、改めて私自身のこれまでを振り返り、その時々仕事のなかで見つけた目標（課題）と仕事に対して抱いた思い、そして今「職業に就く」ということへの自分なりの考えを紹介させていただきます。

学生の頃、「就職」に対して明確な目標を持っていなかったと思います。就職前には、「薬剤師の資格を取得し、病院でしばらく経験を積んだ上で親の薬局を継ぐか、それを生かした職業に就くか」と考えていました。また、当時は病院に就職することは、調剤を主体とした業務を行うことで、なかなか仕事に対して目標を持ち、一定のモチベーションを保つことができなかった時代でもあったと思います。

一つは、高知医科大学附属病院で創設準備を行ったことです。当時、処方せんは手書き、調剤は手作業で、今のように院外処方せんによる医薬分業は全く普及しておらず、外来調剤に多くの時間を費やしていました。誰もが如何に業務の効率化を図っていくかを課題として考えていた時期でもありました。そんな折、高知医科大学附属病院で創設準備のための職員募集があり、早速受験し昭和56年に高知へ赴任することになりました。赴任後、最初に行ったのが、文部省のモデル事業の一つで、院内の診療運用に対するCPUシステムの導入でした。今で言う、オンラインでの結果表示などへのICT導入で、情報伝達の精度向上や業務の効率化を図るためのシステム構築でした。CPUシ

ステムは、大学でも個人でも全く学ぶ機会がなかったため、本当に苦労しました。開院後、処方オーダーシステムを調剤業務に利用できないかといった新たな課題を設け、調剤機器とオンラインで連動した自動調剤システムや自動薬袋作成システムを全国に先駆けて開発を実現し、多くの施設から見学者が来たのを覚えています。今では、これらは電子カルテ導入の際には、当たり前のように普及しています。もう一つの転機は、平成16年に高知医療センターへ赴任したことです。ここでは、前任地の経験が非常に役立ち、電子カルテ、薬剤業務のICT化など、全体のシステム構成が事前に理解できたため、無事導入することができました。また、実務の面で特に力を入れたのが、薬剤師の病棟常駐と抗がん剤のレジメン管理・無菌調製業務の実施です。これらの業務は、高知県はもとより全国的にも実施している施設は少なく、時代のニーズを先取り積極的に取り組んだもので、特に薬剤師の病棟常駐は、全病棟（64床）を対象としたことから、全国でいち早く取り組んだ施設の一つとなっています。前述の通り、私の場合は目標を持って就職を決めたわけではなく、病院薬剤師として就職した後

に仕事の中で課題を見つけ、それを達成するための目標としてきました。「就職」は大きな岐路であり、進路を選択するために、それまでの努力の積み重ねとその結果に基づいた決断力が必要となります。しかし現実には全てが希望した通りになるわけではなく、如何にその職業に興味を持つかが重要であると思っています。「就職」はそこで終わりでなく始まりであり、その先にまた新しい目標が必ずあります。一つ一つの仕事を丁寧になさしていけば、必ず目標が見つかります。本年度、私が薬剤局長になって初めて新人の女性薬剤師を3名採用しました。彼女たちには早く職場に慣れ、どんなことでもいいから、目標を持つてもらいたいと考えています。与えられた課題ではなく、自分から自発的に発想した課題を目標とし、それによって恐らく「就職」したことを実感できるのだと、私はそう思っています。

